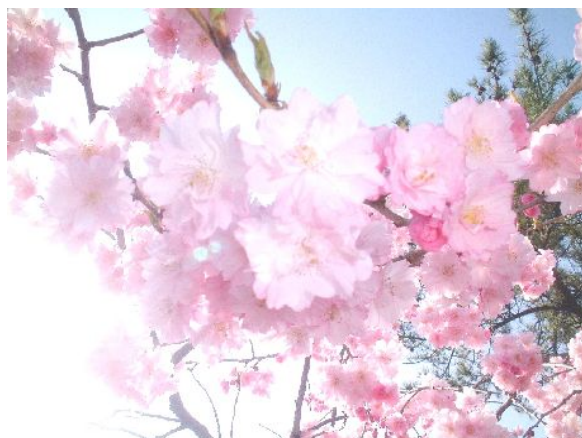


エコアクション 21 環境活動レポート



平成 22 年 6 月 19 日 発行

取組期間：平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月

小野寺建設株式会社

美しい地域環境を 次世代の子供たちへ

環境方針

当社は全ての事業活動を通し、人と環境が調和できる資源循環型社会を形成し、美しい地域環境をより美しく次世代の子どもたちへ引継ぐことを使命とする。

1. 環境負荷の低減を目指し、エネルギー・水資源の使用量の削減、リサイクル率の向上の継続的な改善活動を行い、お客様の保全活動に寄与します。
2. 資機材、部品、備品等の調達において、省資源、再生品等の環境配慮のされた物品を調達するグリーン購入を積極的に推進します。
3. 環境方針を全社員が理解し、各役割を把握し実践すると共に、継続的な意識向上を図るため環境教育に積極的に取り組みます。
4. 環境関連法規を遵守すると共に、事業活動の内外に関わらず善良な市民として行動します。
5. 山形県産品を優先的に購入、使用し地域に根付いた企業づくり・人づくりを目指していきます。

この環境方針は社員全員が周知し、社外にも公表・開示し、環境コミュニケーションに積極的に取り組みます。

平成 21 年 11 月 2 日

<改定履歴>

平成 20 年 12 月 8 日	発行
平成 20 年 12 月 15 日	改訂
平成 21 年 11 月 2 日	改訂

山形県鶴岡市大西町 25 番 48 号

小野寺建設株式会社

代表取締役 小野寺美千子

環境活動レポート 目次

1. 事業活動の概要	4
2. 環境目標と環境活動行動	7
2.1 環境目標	7
2.2 環境活動計画	8
3. 取組実績と評価	9
4. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	12
5. 環境コミュニケーション	13
6. 代表者による全体の評価と見直し	14



グラウンド整備などもしています。



解体業務

1. 事業活動の概要

1) 事業者名及び代表者名

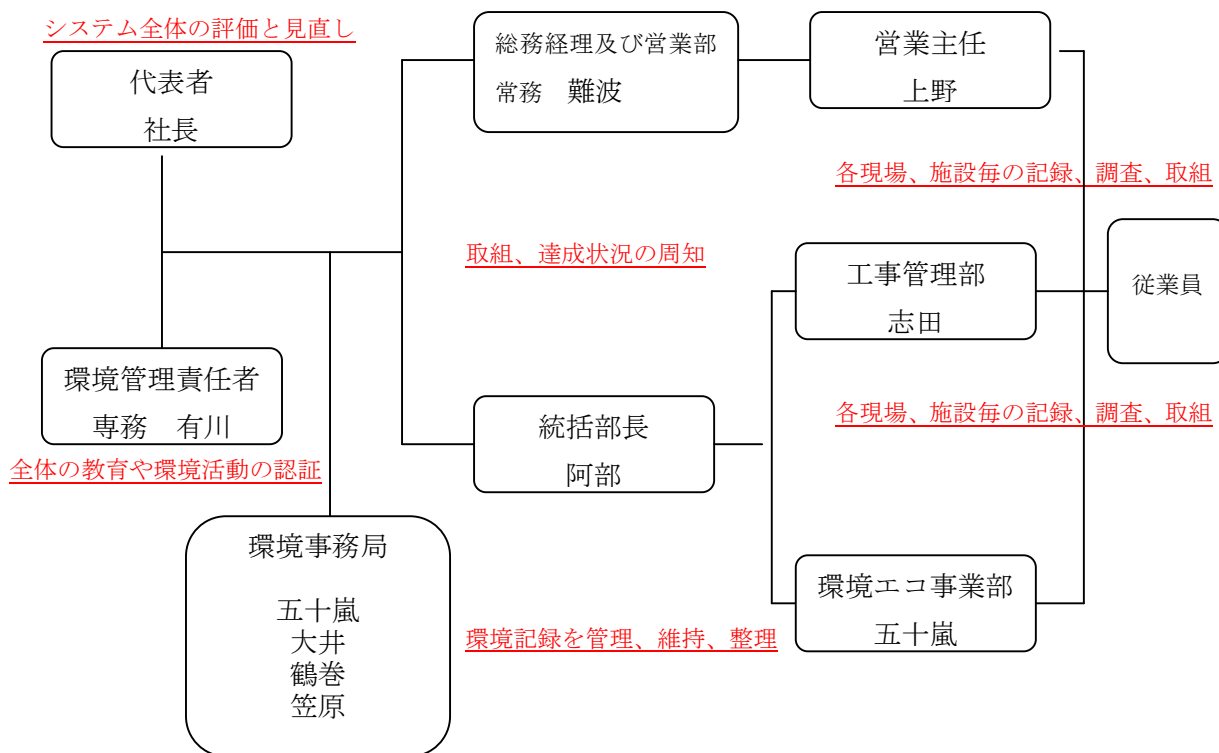
小野寺建設 株式会社
代表者役 小野寺美千子

2) 所在地

本社：山形県鶴岡市大西町 25-48
T E L：0235-22-0391
F A X：0235-23-3358

環境エコ事業部：リサイクルプラント
山形県鶴岡市西目字山田森 28-1
T E L・F A X：0235-35-2400

3) 環境マネジメント組織図



4) 事業の内容

- ・ 土木工事一式
- ・ 建築一式工事
- ・ 建築物及び機械類の解体工事
- ・ 産業廃棄物収集業、処分業及び再生利用業務
- ・ 一般廃棄物収集業、処分業及び再生利用業務

【許可一覧】

許可の種類	許可番号	許可年月日	有効年月日
産業廃棄物処分	第 0625015745	平成 21 年 3 月 1 日	平成 26 年 2 月 28 日
産業廃棄物収集運搬	第 0615015745	平成 21 年 4 月 5 日	平成 26 年 4 月 4 日
特別管理廃棄物収集運搬	第 0615515745	平成 18 年 3 月 20 日	平成 23 年 3 月 19 日
一般廃棄物収集運搬	第 21-31 号	平成 21 年 8 月 15 日	平成 23 年 8 月 14 日
一般廃棄物処分	第 22-24 号	平成 22 年 5 月 1 日	平成 24 年 4 月 30 日

5) 資本金

2,000 万円

6) 代表者

代表取締役 小野寺美千子

7) 従業員数

30 名（男子 25 名、女子 5 名）

8) 沿革

昭和 29 年 1 月 1 日	創立（砂利採取、販売業を興す）
昭和 41 年 7 月 1 日	会社設立（土木、建設業として組織変更）
平成 5 年 12 月	がれき類（コンクリート、アスファルト）の再生資源施設
平成 7 年 6 月	木くずの焼却施設を設置
平成 11 年 4 月	木くずの破碎施設を設置
平成 15 年 3 月	木くずの再資源化を図るため、チップ化工場を建設
平成 19 年 10 月	環境エコ事業部リサイクルプラントの 24 時間操業化
平成 21 年 10 月	小野寺美千子 代表取締役に就任

9) 事業年度

毎年 10 月から翌年 9 月末

10) 事業の規模

活動規模	単位	43期	44期
売上高	百万円	337	466
収集運搬実績	t	9,759	10,904
処理実績	t	16,482	16,748
従業員数	人/年	30	30
敷地総床面積	m ²	37,108.6	37,108.6
車両台数	台	15	15

※ 従業員は、月単位で集計し平均を出しております。

※ 収集運搬実績、処理実績は自社の事業年度で集計しています。

11) その他の情報公開（許可内容、車輛・処理施設等状況、処理実績、処理料金など）

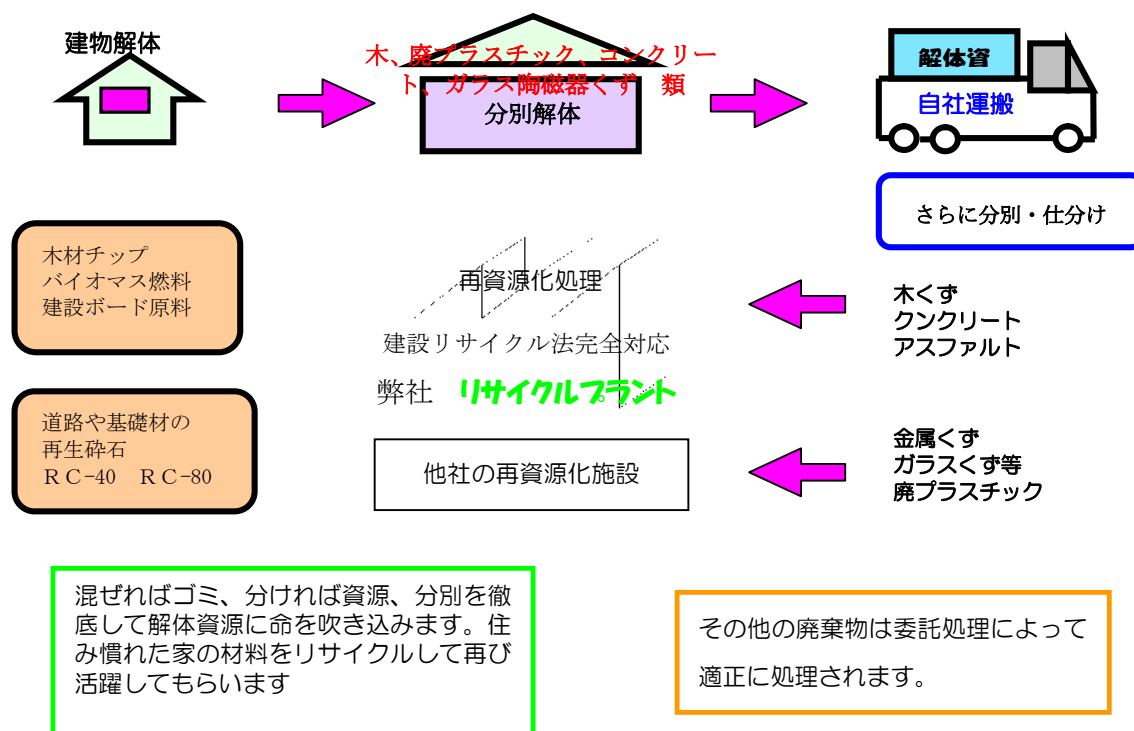
HP : <http://www.onoderakensetsu.jp/>

産業情報ネット情報公開URL : <http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index.php>

12) 本レポートに関する問合せ先

環境事務局（担当：笠原）

13) 社内処理（リサイクルフロー図）



2. 環境目標と環境活動

2.1 環境目標

環境目標は平成 20 年度 (H20. 4～H21. 3) を基準にし、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排出量、社会貢献活動について下記のように設定した。

①エネルギー使用量、②二酸化炭素排出量は工事の収集運搬車輛及び重機稼動により軽油の割合が高く、業務の量のよって変動するため、20 年度を基準に目標設定した。

③産業廃棄物排出量は自社の排出量で他社の受入量を含めず目標設定した。但し、焼却した場合の燃え殻などは含めている。

④一般廃棄物排出量⑤総排水量は 21 年度から計量したため 21 年度を基準に目標設定した。総排水量に関しては地下水の計量も含まれる。

⑤全体のリサイクル率は 20 年度を基準にした。

⑥木くずのリサイクル率に関しては 21 年度からリサイクルできない物は除き、21 年度を基準に目標設定した。

環境目標項目	単位	20 年度実績	21 年度目標	22 年度目標
①エネルギー使用量	M J	5, 070, 363	5, 019, 659	4, 968, 956
②二酸化炭素排出量	kg-CO2	140, 407	139, 003	137, 599
③産業廃棄物排出量	kg	16, 482, 000	16, 317, 180	16, 152, 360
④一般廃棄物	k g	/	579 (21 年度実績)	567
⑤総排水量	m ³	/	23, 526 (21 年度実績)	23, 055
⑤全体のリサイクル率	%	82	83	84
⑥木くずのリサイクル率	%	/	27 (21 年度実績)	28

2.1 環境活動計画

環境目標を達成するため、以下に示す環境行動計画を策定した。

1) 電力使用量の削減

- ・ こまめな電源スイッチの入切を徹底する
- ・ 不要照明の取り外し
- ・ 待機電力の削減
- ・ 冷暖房の清掃
- ・ 温度管理の徹底(冬:20度 夏:28度)
- ・ 不要なコンセントの取り外し

2) 水資源の削減

- ・ 水の強さを調節(給水栓を絞る)
- ・ 水道の蛇口をこまめに閉める

3) 廃棄物削減

- ・ 分別の徹底
- ・ 私用ゴミを削減させる
- ・ 両面コピーの印刷徹底
- ・ 作業効率をあげる
- ・ 一般廃棄物の分別徹底、リサイクルにまわす
- ・ 分別マニュアルの教育
- ・ 使い捨て製品の購入抑制

4) 車輛整備・管理・燃料使用量の削減

- ・ 使用時にはエコドライブを実施し環境配慮した運転を心がける
- ・ 定期的なタイヤの点検
- ・ 経済速度の厳守
- ・ 始、終業時の車輛の点検
- ・ 各種重機はフル稼働せず、70%の動力で作業する
- ・ 車輛から余計な荷物は降ろす
- ・ 運転経路等などの見直し、統一化
- ・ 作業手順の見直し

2) グリーン購入の推進

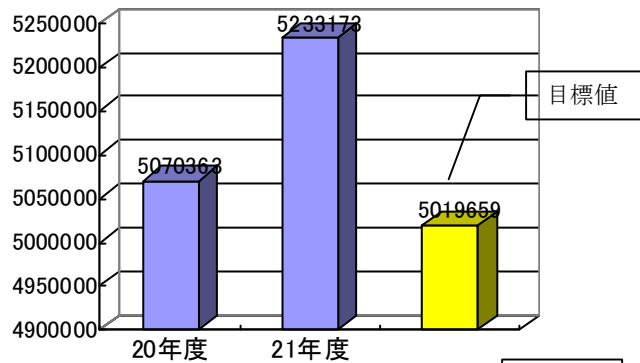
- ・ 備品、事務用品等の購入は、グリーン購入を推進する

3. 取組実績と評価

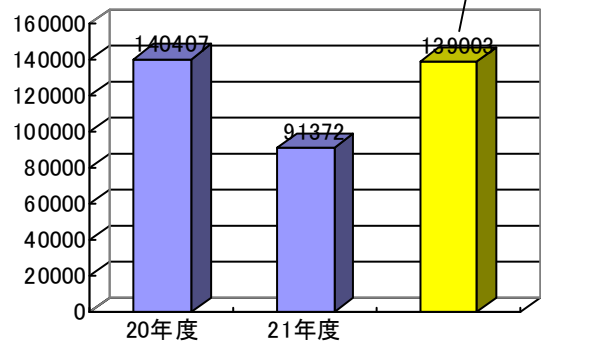
1) 取組実績

		20年度	21年度	削減率
①総エネルギー投入量	MJ	5,070,363	5,233,173	-3.2%
	目標値		5,019,659	
②二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	140,407	91,372	34.9%
	目標値		137,599	
③産業廃棄物排出量	t	16,482	16,748	-1.6%
	目標値		16,152	
④一般廃棄物排出量	kg	現状把握	579	現状把握
⑤総排水量	m ³	現状把握	23,526	現状把握
⑥全体のリサイクル率	%	82	85	3%
	目標値		83	
⑦木くずのリサイクル率	%	27	44	17%

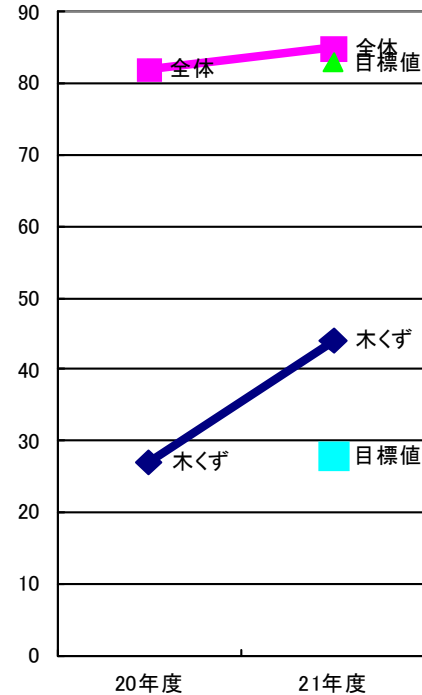
総エネルギー投入量



総二酸化炭素排出量

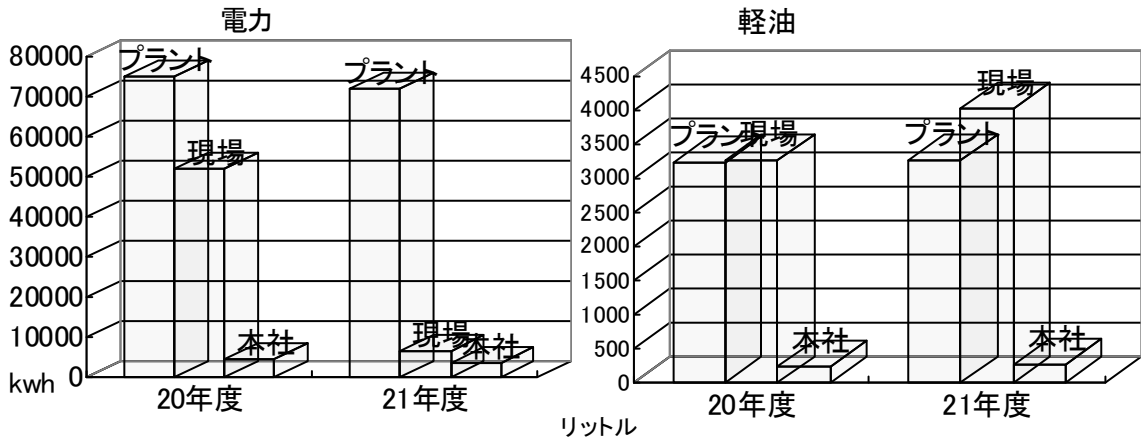


リサイクル率

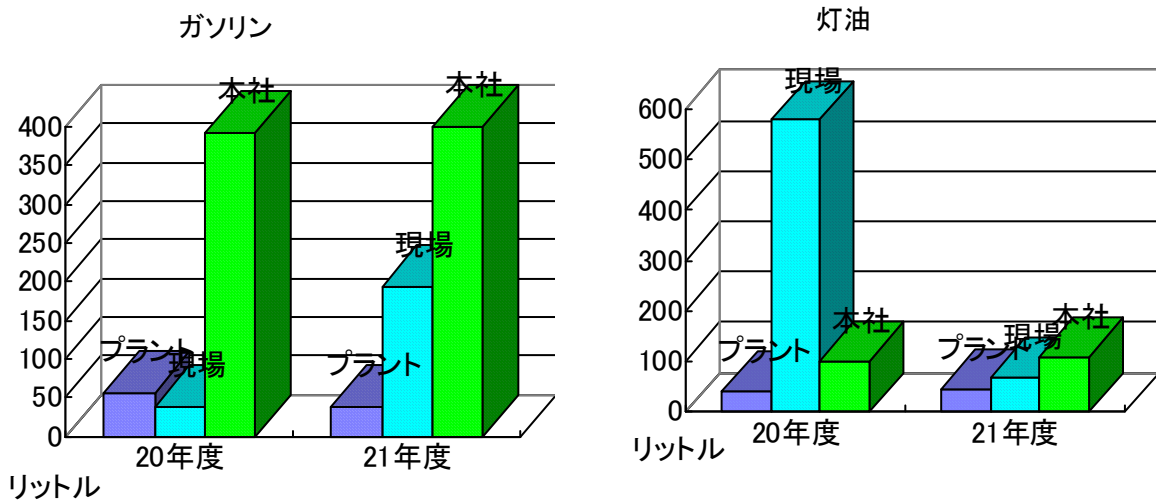


2)部門毎の二酸化炭素排出量

	電力			軽油		
	20年度	21年度	削減率	20年度	21年度	削減率
プラント	74,929	71,902	4.0%	3,237	3,225	0.4%
現場	51,813	6,687	86.9%	3,253	4,030	-23.9%
本社	4,519	3,375	25.3%	253	279	-10.3%



	ガソリン			灯油		
	20年度	21年度	削減率	20年度	21年度	削減率
プラント	55	39	29.0%	42	45	-7.1%
現場	38	193	-407.9%	579	70	87.9%
本社	391	400	-2.3%	101	110	-8.9%



3) 評価

① 総エネルギー投入量

環境活動を実施することで上記のグラフ通り目標達成することができた。電力の主な使用はリサイクルプラントである。破碎機、クラッシャー、焼却炉の大型のモーターを使用しているためである。廃棄物の受入量によっても左右される。削減するためにも効率よく作業することが望まれる。21年度の現場の電力使用量については工事内容が違うために大幅に削減できたものと考えられる。今後、更なる環境活動の実施を強化していく。

② 二酸化炭素排出量

当社における21年度の排出量は91,372 kg-CO₂となっており一般家庭(年間5.2t)の約17.5件分の排出量に相当している。部門毎に見てみると電力の排出量が全体の90%を占めている。20年度に比べ21年度は電力の排出量が49,035 kg-CO₂削減できた。工事内容が20年度に比べ電力を使用しない部分が多かったのも一つの要素であると考えられる。また、リサイクルプラントの設備をダウンサイジングしたことも考えられる。加えて、20年度より電力の削減の為、社員全員の意識が高まったことで、目標達成できたと考えられる。化石燃料に関しては、工事内容が20年度とは異なるため、増加した部門もあるが全体で比べてみると34.9%も削減できた。環境活動が20年度より強化できたことが削減につながったと考えられる。

③ 産業廃棄物排出量

自社の排出量が1,369t増加した。自社の工事業務が増加したのと考えられる。全体の受入量が266t増加したが他社の工事業務が減少した為と考えられる。自社で処理できない産業廃棄物に関しては、委託し最終処分場で適正に処理している現状がある。

④ 一般廃棄物排出量

取組開始が21年1月～3月からなので正確に記録が計測できなかった。21年度を基準に22年度の目標設定をした。当社内で使用する、容器類は使い捨ての物ではなく、何度も使用できるものにし、エコ活動の意識を高めている。22年度は目標達成できるよう努力していく。

⑤ 総排水量

21年度から地下水の計量を開始した。焼却炉を使用しているため地下水の使用が大半を占めている。上水だけ見てみると、20年度に比べ環境活動を実施することで46 m³削減することができた。

⑥全体のリサイクル率、⑦木くずのリサイクル率

産業廃棄物全体受入の量が20年度16,482t、21年度16,748tで266tと増加した。コンクリート、アスファルトは100%リサイクルし再生砕石になっている。木くずは21年度からリサイクルできない木くず(草など)は含めないように計量した。結果、全体では3%向上した。木くずは17%向上することができた。

4. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無の実績と評価

21年度は環境に関する苦情はありません。また、地域住人からの苦情もありません。

関係当局より焼却炉の維持管理基準に対する指導とダイオキシン類による汚染について指導がありました。焼却炉の維持管理につきましては、行政指導の下、平成22年2月15日改善しました。その後、温度管理を徹底し再発はありません。

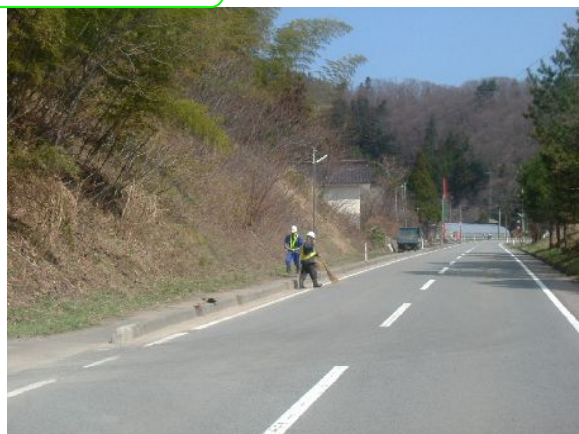
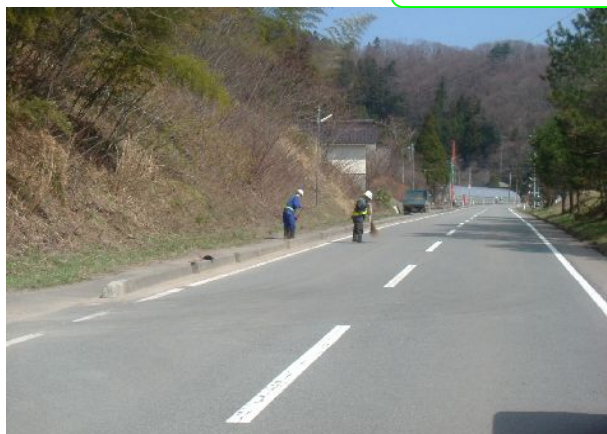
ダイオキシン類による汚染については、ばいじんの測定が3.3ng-TEQ/m³Nになり基準値を超えました。即日、原因不明な為ガス経路の掃除を施し温度管理を徹底しました。基準値を超えたばいじんは、熔融処理を委託しました。再度検査し2.9ng-TEQ/m³Nとなり報告書を提出した。その後も温度管理を徹底し運転管理をしています。

6. 環境コミュニケーション

エコハウス”太陽の恵み”完成!!



地域の道路清掃を実施



会社周辺の草刈を実施



7. 代表者による全体の評価と見直し

1) 全体評価

エコアクションの取組みが2年目となり、会社全体として省エネルギー、省資源の意識が高まってきたと感じている。また、数値的にもそのことが読み取れる。当社の業務は受注産業であり、しかも、工事の種別によって使用するエネルギーや排出物が大きく変わる要素があり、単純に前年度比較や次年度の目標立てができない側面があるが、日常データを積上げ検討を深めていくことが重要に思う。

3年目に向け、中弛みしないよう朝礼での声かけや、掲示物等の更新など、意識啓発を継続し、環境方針に従って取組みを向上させ、人と環境が調和できる資源循環型社会を形成し、美しい地域環境を次世代に引き継ぐために事業活動を行っていく。

2) 個別目標

①電力

昨年の見直し事項の設備のダウンサイジングを行ったことが削減に繋がったようである。次年度は焼却炉のファンの消費電力も大きいことから、リサイクル率を向上させ焼却炉の稼働時間の縮減に努め消費電力の削減ができないか検討すること。

②化石燃料

検討事項の重機の処分は行っていないがリースは多く使用しているようだ。引続き年代の古い物の更新を検討する。また、車両のエコドライブと経路の最適化、重機のエコドライブ、作業の効率化を徹底するための検討会を行うこと。

③廃棄物排出量

受注量に比例し排出量が増加するので引続き分別精度を上げ、リサイクル率の向上に努めること。また、今までリサイクルしていない品目（蒴草等）のリサイクル化のルートを検討すること。

④木くずのリサイクル率

蒴草を除いたことでリサイクル率の向上が見られた。ユーザーとの協議を行い品質確保した上でリサイクル率のさらなる向上を検討すること。

⑤地域活動

引続き前従業員が地域に対して社会的役割と責任をより深く理解し、次世代の子供たちに美しい地域環境を残していくよう努める。またこの地域になくってはならない企業づくり・人づくりを目指していく。